

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 2020年2月13日

【四半期会計期間】 第146期第3四半期(自 2019年10月1日 至 2019年12月31日)

【会社名】 神奈川中央交通株式会社

【英訳名】 Kanagawa Chuo Kotsu Co., Ltd.

【代表者の役職氏名】 取締役社長 堀 康 紀

【本店の所在の場所】 神奈川県平塚市八重咲町6番18号

【電話番号】 0463(22)8800

【事務連絡者氏名】 総務部長 福 原 賢 浩

【最寄りの連絡場所】 神奈川県平塚市八重咲町6番18号

【電話番号】 0463(22)8800

【事務連絡者氏名】 総務部長 福 原 賢 浩

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所  
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

## 第一部 【企業情報】

### 第1 【企業の概況】

#### 1 【主要な経営指標等の推移】

回次	第145期 第3四半期 連結累計期間	第146期 第3四半期 連結累計期間	第145期
会計期間	自 2018年4月1日 至 2018年12月31日	自 2019年4月1日 至 2019年12月31日	自 2018年4月1日 至 2019年3月31日
売上高 (百万円)	86,000	85,057	114,809
経常利益 (百万円)	6,247	5,769	6,789
親会社株主に帰属する 四半期(当期)純利益 (百万円)	3,942	3,651	4,089
四半期包括利益又は包括利益 (百万円)	3,982	4,646	4,985
純資産額 (百万円)	59,088	64,185	60,064
総資産額 (百万円)	151,826	157,479	153,176
1株当たり四半期(当期) 純利益 (円)	320.44	297.54	332.64
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益 (円)			
自己資本比率 (%)	36.0	37.8	36.3

回次	第145期 第3四半期 連結会計期間	第146期 第3四半期 連結会計期間
会計期間	自 2018年10月1日 至 2018年12月31日	自 2019年10月1日 至 2019年12月31日
1株当たり四半期純利益 (円)	98.80	95.97

- (注) 1 当社は四半期連結財務諸表を作成しているため、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
- 2 売上高には、消費税等は含まれておりません。
- 3 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益については、潜在株式が存在しないため、記載しておりません。

#### 2 【事業の内容】

当第3四半期連結累計期間において、当社グループが営んでいる事業の内容に重要な変更はありません。  
 また、主要な関係会社についても異動はありません。

## 第2 【事業の状況】

### 1 【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、新たに発生した事業等のリスクはありません。  
また、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについて重要な変更はありません。

### 2 【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

#### (1) 経営成績等の状況の概要

当第3四半期連結累計期間における当社グループ（当社、連結子会社及び持分法適用会社）の経営成績および財政状態の状況の概要は次のとおりであります。

#### 経営成績の状況

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、輸出や生産に弱さが続いているものの設備投資が緩やかに増加し、個人消費は雇用・所得環境の改善が続くなかで持ち直しの動きがみられるなど緩やかな回復傾向が続きました。一方、米中を中心とした通商問題の影響などにより海外経済の一部で減速の動きが続いていることに加え、国内では消費税率引上げ後の消費マインドの動向が懸念され、先行き不透明な状況で推移しています。

このような状況のもと、当社グループ各社は、各部門において積極的な営業施策を図ってまいりましたが、当第3四半期連結累計期間においては、乗用事業の収入の減少や乗合事業におけるバス営業所の建替など設備投資の増加に伴う減価償却費の増加により、売上高は85,057百万円（前年同期比1.1%減）、営業利益は5,628百万円（前年同期比6.2%減）、経常利益は5,769百万円（前年同期比7.6%減）、親会社株主に帰属する四半期純利益は3,651百万円（前年同期比7.4%減）となりました。

セグメントの業績の概況は、次のとおりであります。

#### （一般旅客自動車運送事業）

乗合事業においては、4月に慶應義塾大学湘南藤沢キャンパスの学生数の増加に対応するため、湘南台駅～慶応大学間で輸送力の増強を行うとともに、神奈川中央交通東(株)にて川崎市交通局より新たに1系統の受託を開始するなどの増収策を図りました。また、10月よりドライバー異常時対応システム（EDSS）を搭載した路線バスを順次導入したことに加え、ノンステップバスの導入を推進し安全輸送の確保や利便性の向上に取り組んだものの、10月に発生した台風19号の影響により計画運休を実施したほか、養護学校など一部の特定契約輸送が契約満了となったことなどにより減収となりました。

貸切事業においては、神奈中観光(株)にて、積極的な営業活動に努め新たな旅行エージェントとの取引を開始するなど受注が増加したことなどにより稼働率が向上し増収となりました。

乗用事業においては、高齢の方や車椅子ご利用の方など、さまざまなお客さまが利用しやすいユニバーサルデザインの次世代型タクシー「JPN TAXI（ジャパntaxi）」の導入を推進しました。また、9月には決済機能付きタブレット端末を全車両に設置したほか、12月にはモバイル端末によるタクシー共同配車アプリ活用時における配車対応エリアの充実を図り、無線配車サービスのお客さまの利便性向上に努めたものの、乗務員不足による稼働減が影響し減収となりました。

以上の結果、一般旅客自動車運送事業全体の売上高は44,548百万円（前年同期比1.9%減）、営業利益は2,593百万円（前年同期比18.6%減）となりました。

#### （不動産事業）

分譲事業においては、前期に引き続き、デベロッパーとのマンション共同事業として、伊勢原市桜台にて「リーフィアレジデンス伊勢原」および藤沢市羽鳥にて「プレミスト湘南辻堂」の販売を進めました。さらに、神奈川県内のほか、東京都内の物件を手掛けるなど広く分譲開発を継続し、新たに横浜市都筑区の戸建分譲を開始したほか、茅ヶ崎市室田の戸建分譲および茅ヶ崎市菱沼の宅地分譲を行ったことなどにより増収となりました。

賃貸事業においては、高稼働率の維持に努め、前期に新たに賃貸を開始した「平塚市浅間町貸店舗」および新規テナントが入居した「港南中央ビル」などの賃貸収入が通期寄与したことなどにより増収となりました。

以上の結果、不動産事業全体の売上高は4,490百万円（前年同期比11.7%増）、営業利益は1,960百万円（前年同期比10.5%増）となりました。

(自動車販売事業)

自動車販売事業においては、神奈中相模ヤナセ(株)にて、7月にフルモデルチェンジした「Aクラス」や「Bクラス」のほか、8月にマイナーチェンジした「CL Aクラス」の新車販売が順調に推移しましたが、高価格帯の車両販売数が減少したことなどにより減収となりました。また、神奈川三菱ふそう自動車販売(株)にて、小型トラック「キャンター」の販売が順調に推移するとともに、整備部門において採算性の高い受注獲得に努め車両整備単価が向上したものの、大型バスの販売台数が減少したことなどにより減収となりました。

以上の結果、自動車販売事業全体の売上高は21,886百万円(前年同期比3.9%減)、営業利益は225百万円(前年同期比0.5%減)となりました。

(その他の事業)

流通事業においては、(株)神奈中商事にて、バスICカードシステム機器の代替を受注し、部品販売が増加したほか、バス営業所の建替に伴う空調や厨房などの設備工事を受注したことにより増収となりました。

情報サービス事業においては、(株)神奈中情報システムにて、ドライブレコーダーやパスロケーションシステムなどバス車載器の代替を受注したことなどにより増収となりました。

ビル管理事業においては、横浜ビルシステム(株)にて、4月より新たに金融機関の事務処理業務の一部を受託したほか、公営駐車場の指定管理業務を受注したことなどにより増収となりました。

レジャー・スポーツ事業においては、(株)神奈中スポーツデザインにて、4月より子ども向けスポーツスクールを核とした小規模運動施設「神奈中スポーツコンボBB茅ヶ崎」を開業したほか、9月に「フィットネスクラブライフティック平塚」にて、カラーゲン岩盤浴施設を導入するなど施設をリニューアルし、会員の獲得に向けた施策を推進しましたが、新たな競合施設の出店に伴う競争激化の影響などにより減収となりました。

商用車架装事業においては、横浜車輛工業(株)にて、トラックの新車販売台数の増加を背景にトラクタ架装の受注が順調に推移しましたが、競合他社との競争激化によりトラックメーカーへの部品販売が減少したことなどにより減収となりました。

飲食・娯楽事業においては、ドーナツ店やドトールコーヒー店舗にてタピオカブームによりドリンクなどの売上が順調に推移しました。また、前期に新たなブランド展開を始めたラーメン店の2号店として7月にオープンした「北海道らーめん麺処うたり相模大野店」や、10月にオープンした「ドトールコーヒーショップ日本橋馬喰町店」が順調に推移したものの、T S U T A Y A店舗における売上不振や閉店の影響などにより減収となりました。

ホテル事業においては、宿泊部門にて旅行エージェントへ積極的な営業活動を行い、訪日外国人旅行者など宿泊客が増加しました。また、10月に宴会場を拡張し収容力を強化したことにより宴会の受注数が増加しましたが、前期にケーキショップ「ブルーベリー」を閉店した影響などにより減収となりました。

以上の結果、その他の事業全体の売上高は23,310百万円(前年同期比1.6%増)、営業利益は1,021百万円(前年同期比4.8%増)となりました。

財政状態

総資産は、神奈川中央交通西(株)秦野営業所および研修センター建替工事に伴い建物及び構築物が増加したことや、自動車販売事業における商品及び製品の増加などにより、前期末に比べて4,303百万円増加し、157,479百万円となりました。

負債は、借入金の返済が進みましたが、リース債務の増加などにより、前期末に比べて182百万円増加し、93,294百万円となりました。

また、純資産は、利益剰余金が増加したことなどにより、前期末に比べて4,121百万円増加し、64,185百万円となりました。

(2) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第3四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更および新たに生じた課題はありません。

(3) 研究開発活動の状況

該当事項はありません。

3 【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

### 第3 【提出会社の状況】

#### 1 【株式等の状況】

##### (1) 【株式の総数等】

###### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	50,400,000
計	50,400,000

###### 【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間 末現在発行数(株) (2019年12月31日)	提出日現在 発行数(株) (2020年2月13日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	12,600,000	12,600,000	東京証券取引所 市場第一部	完全議決権株式であり、権利 内容に何ら限定のない当社に おける標準となる株式 単元株式数100株
計	12,600,000	12,600,000		

##### (2) 【新株予約権等の状況】

###### 【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

###### 【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
2019年10月1日～ 2019年12月31日		12,600,000		3,160		337

##### (5) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(6) 【議決権の状況】

当第3四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日（2019年9月30日）に基づく株主名簿による記載をしております。

【発行済株式】

2019年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 328,000		権利内容に何ら限定のない当社における標準となる株式
完全議決権株式(その他)	普通株式 12,251,000	122,510	同上
単元未満株式	普通株式 21,000		同上
発行済株式総数	12,600,000		
総株主の議決権		122,510	

(注) 「単元未満株式」の欄の普通株式には、当社所有の自己株式12株が含まれております。

【自己株式等】

2019年9月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) 神奈川中央交通株式会社	神奈川県平塚市八重咲町 6 - 18	328,000		328,000	2.60
計		328,000		328,000	2.60

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

## 第4 【経理の状況】

### 1 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号)に基づいて作成しております。

### 2 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間(2019年10月1日から2019年12月31日まで)及び第3四半期連結累計期間(2019年4月1日から2019年12月31日まで)に係る四半期連結財務諸表について、EY新日本有限責任監査法人の四半期レビューを受けております。

## 1 【四半期連結財務諸表】

## (1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2019年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	2,995	3,453
受取手形及び売掛金	1 9,824	1 9,837
商品及び製品	6,485	7,699
仕掛品	9	33
原材料及び貯蔵品	474	536
その他	2,550	2,647
貸倒引当金	83	74
流動資産合計	22,256	24,133
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	84,004	85,246
車両運搬具	44,314	43,005
土地	60,796	61,624
その他	20,374	22,795
減価償却累計額	102,376	103,939
有形固定資産合計	107,113	108,732
無形固定資産		
投資その他の資産	1,189	1,044
投資有価証券	18,520	19,644
その他	4,164	3,936
貸倒引当金	68	10
投資その他の資産合計	22,616	23,569
固定資産合計	130,920	133,346
資産合計	153,176	157,479
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	1 7,548	1 7,830
短期借入金	18,990	24,384
1年内償還予定の社債	5,000	5,000
未払法人税等	1,097	460
賞与引当金	2,296	1,014
その他	13,019	14,526
流動負債合計	47,952	53,217
固定負債		
社債	10,000	10,000
長期借入金	12,989	6,165
役員退職慰労引当金	25	24
退職給付に係る負債	4,391	4,316
その他	17,753	19,570
固定負債合計	45,159	40,077
負債合計	93,112	93,294



(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2019年12月31日)
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	3,160	3,160
資本剰余金	689	689
利益剰余金	46,682	49,811
自己株式	936	937
株主資本合計	49,594	52,724
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	6,035	6,824
繰延ヘッジ損益	15	
退職給付に係る調整累計額	15	5
その他の包括利益累計額合計	6,035	6,818
非支配株主持分	4,433	4,642
純資産合計	60,064	64,185
負債純資産合計	153,176	157,479

## (2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

## 【四半期連結損益計算書】

## 【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自2018年4月1日 至2018年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自2019年4月1日 至2019年12月31日)
<b>売上高</b>		
一般旅客自動車運送事業営業収益	45,258	44,378
不動産事業売上高	4,011	4,484
その他の事業売上高	36,730	36,194
売上高合計	86,000	85,057
<b>売上原価</b>		
一般旅客自動車運送事業運送費	37,748	37,293
不動産事業売上原価	1,631	1,882
その他の事業売上原価	29,669	29,200
売上原価合計	69,049	68,376
<b>売上総利益</b>	16,950	16,680
<b>販売費及び一般管理費</b>		
販売費	7,065	7,168
一般管理費	3,881	3,883
販売費及び一般管理費合計	10,947	11,052
<b>営業利益</b>	6,003	5,628
<b>営業外収益</b>		
受取配当金	275	306
事故賠償費精算差益	115	
その他	158	150
営業外収益合計	549	456
<b>営業外費用</b>		
支払利息	257	240
その他	48	75
営業外費用合計	306	316
<b>経常利益</b>	6,247	5,769
<b>特別利益</b>		
固定資産売却益	20	67
補助金収入	110	48
その他	10	10
特別利益合計	140	126
<b>特別損失</b>		
固定資産除却損	236	166
固定資産圧縮損	108	47
その他	24	47
特別損失合計	369	260
<b>税金等調整前四半期純利益</b>	6,019	5,634
法人税、住民税及び事業税	1,299	1,363
法人税等調整額	602	426
法人税等合計	1,901	1,789
<b>四半期純利益</b>	4,117	3,845
非支配株主に帰属する四半期純利益	175	193
親会社株主に帰属する四半期純利益	3,942	3,651

## 【四半期連結包括利益計算書】

## 【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)
四半期純利益	4,117	3,845
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	98	802
繰延ヘッジ損益	34	15
退職給付に係る調整額	2	14
その他の包括利益合計	135	801
四半期包括利益	3,982	4,646
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	3,813	4,433
非支配株主に係る四半期包括利益	168	212

【注記事項】

(四半期連結貸借対照表関係)

1 四半期連結会計期間末日満期手形の処理

四半期連結会計期間末日満期手形は、手形交換日をもって決済処理しております。なお、当第3四半期連結会計期間の末日は金融機関の休日であったため、次の四半期連結会計期間末日満期手形が期末残高に含まれておりません。

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2019年12月31日)
受取手形	136百万円	173百万円
支払手形	35	37

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)
減価償却費	4,750百万円	4,970百万円

(注) のれんの償却額は、金額の重要性が乏しいため注記を省略しております。

(株主資本等関係)

前第3四半期連結累計期間(自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)

## 1 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2018年6月28日 定時株主総会	普通株式	215	17.50	2018年3月31日	2018年6月29日	利益剰余金
2018年10月30日 取締役会	普通株式	214	17.50	2018年9月30日	2018年11月21日	利益剰余金

2 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日  
後となるもの

該当事項はありません。

3 株主資本の著しい変動

該当事項はありません。

当第3四半期連結累計期間(自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)

## 1 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2019年6月27日 定時株主総会	普通株式	276	22.50	2019年3月31日	2019年6月28日	利益剰余金
2019年10月30日 取締役会	普通株式	245	20.00	2019年9月30日	2019年11月21日	利益剰余金

2 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日  
後となるもの

該当事項はありません。

3 株主資本の著しい変動

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			その他の 事業 (注1)	計	調整額 (注2)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注3)
	一般旅客 自動車 運送事業	不動産事業	自動車 販売事業				
売上高							
外部顧客への売上高	45,258	4,011	20,424	16,306	86,000		86,000
セグメント間の内部 売上高又は振替高	175	10	2,347	6,626	9,159	9,159	
計	45,433	4,021	22,771	22,932	95,159	9,159	86,000
セグメント利益	3,186	1,774	226	974	6,161	157	6,003

(注) 1 「その他の事業」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、流通事業、飲食・娯楽事業、ホテル事業等を含んでおります。

2 セグメント利益の調整額 157百万円は、セグメント間取引消去額であります。

3 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と一致しております。

当第3四半期連結累計期間(自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			その他の 事業 (注1)	計	調整額 (注2)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注3)
	一般旅客 自動車 運送事業	不動産事業	自動車 販売事業				
売上高							
外部顧客への売上高	44,378	4,484	20,028	16,166	85,057		85,057
セグメント間の内部 売上高又は振替高	170	6	1,857	7,143	9,178	9,178	
計	44,548	4,490	21,886	23,310	94,235	9,178	85,057
セグメント利益	2,593	1,960	225	1,021	5,801	172	5,628

(注) 1 「その他の事業」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、流通事業、飲食・娯楽事業、ホテル事業等を含んでおります。

2 セグメント利益の調整額 172百万円は、セグメント間取引消去額であります。

3 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と一致しております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第3四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)
1株当たり四半期純利益	320円44銭	297円54銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益(百万円)	3,942	3,651
普通株主に帰属しない金額(百万円)		
普通株式に係る親会社株主に帰属する 四半期純利益(百万円)	3,942	3,651
普通株式の期中平均株式数(千株)	12,302	12,272

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式が存在していないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

記載すべき事項はありません。

2 【その他】

第146期中間配当に係る取締役会の決議は、次のとおりであります。

- (イ) 決議年月日 2019年10月30日
- (ロ) 中間配当金の総額 245,439,760円
- (ハ) 1株当たりの配当金額 20円00銭
- (ニ) 中間配当金支払開始日 2019年11月21日

## 第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。



## 独立監査人の四半期レビュー報告書

2020年2月12日

神奈川中央交通株式会社  
取締役会 御中

EY新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 加藤 秀 満 印

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 小野原 徳 郎 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている神奈川中央交通株式会社の2019年4月1日から2020年3月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間(2019年10月1日から2019年12月31日まで)及び第3四半期連結累計期間(2019年4月1日から2019年12月31日まで)に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

### 四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

### 監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、神奈川中央交通株式会社及び連結子会社の2019年12月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

- 
- (注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。  
2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。